

〔ライブラリー〕

「妻を帽子とましがえた男」

オリバー・サックス著
高見幸郎、金沢泰子訳 晶文社

本書は、神経医である著者が、臨床経験の中で出会ったユニークな神経学的症状を示す患者について語った24の臨床話で構成されている。表題になった「妻と帽子をましがえた男」は、視覚失認のため目の前に見えているものが何であるかわからず、人を見ても誰であるかわからずに、妻の頭を帽子とましがえてかぶろうとするような奇妙な行動をする男の話である。他にも、ある時からまったく記憶することができなくなったために、何十年も前の時代に生き続けている男の話や、抽象的・範疇的な態度が失われて、感情と具体的・即物的な理解のみが残された失語症者の話など、様々な神経学的症状の患者の話が紹介される。これらの不可解な行動の記述は、この領域についてまったく知らない人が読んでも興味深く、わかりやすく描かれているが、この領域を知るものからみれば、どの話も、一見奇妙な行動のメカニズムを神経心理学的に探った鋭い分析結果が示されていることがわかる。そして、そのような奇妙な状態のメカニズムは何なのかという興味につられて読み進むうちに、著者はいつの間にか読者の目を患者の示す神経症状から、奇妙な行動をしながらもひとりの整合性をもった個人としての患者へと向けさせていく。

著者は、医療や福祉のもとで患者を適応させようとするような働きかけをするわけではない。むしろ、神経学的な症状を探っていくうちに、患者が自己そのものを失うような神経障害を持ちながら、人間としてのアイデンティティを持ち、人間らしさを回復していくことに気付き、著者自身が驚いているように見える。たんとんと事実として述べられるこれらの人達の人間としての整合性に関する記述は、非常に説得力がある。障害を軽減することに目を奪われていると、少なからずショックを受ける。今まで観念的に捉えていた「障害者の人権」と言われるようなことが、日々の臨床とどうかかわるのかわかってくるような、そんな本である。

LDや自閉を学ぶ人はもちろん、障害にかかわる全ての人に一読を勧めたい。

(土浦短期大学 山根律子)

「障害をもつアメリカ人に関する法律」

編者：中野善達 藤田和弘
田島 裕 湘南出版

「1990年障害をもつアメリカ人に関する法律 Americans with Disabilities Act of 1990 (ADA)」は、その成立以前から我が国の福祉関係者等の間では強い関心が持たれていた。法成立後、解説記事や論文、関係者の集会等に接することは度々あったが、大理石を思わせる装丁の本書を手にして少なからず驚いた。実に整然と必要な内容が網羅されているのである。

本書は1990年ADAの全文翻訳 (I)、原文 (II)、法技術的観点からの合州国憲法との関係や州法との関係などを検討した解説 (III)、署名時の大統領声明および演説 (IV)、審議未了となった1988年 ADA 法案 (V)、その後の1990年ADA成立までの過程 (VI)、「議会議事録」に掲載されたADA及び関連事項の記事389件 (VII) からなっている。本書の副題が「翻訳・原文・資料」となっているとおり、同法成立に関する実に膨大な資料が整理され、かつ、引用文献が「注」として掲げられている。ADAの研究者には親切な案内書となるであろう。

今後、我が国では日本版ADAの声があがるであろうが、日本の国民性と社会を把握した上でADAを咀嚼し吸収し易い形に変えなければならない。自立生活をめざす障害者はもとより、教育、福祉、リハビリテーション関連領域に携わる人々は、この本を通して自分なりの考えを作り出すことができると思われる。かつて、教育を学ぼうとしていた私達は「アヴェロンの野生児」をどう読むかゼミで学習したときのことを思い出す。その本の訳者が奇しくも本書編者のお一人、中野善達先生であった。現代世界最強の市民権保護法ともいわれるADAは、日本社会の多方面に影響を及ぼすと思われるとき、本書は、それらを正しく理解し、望ましい方向へ進めるための原点となる貴重な専門書である。(国立身体障害者リハビリテーションセンター 岩坪奇子)